



ちょっとお出かけ い〜な旅  
2017/08/23 (水)

平成 29 年度 第 4 回

## 【信州デスティネーション期間中イベント】

### 夏雲沸くアルプスの眺望と“カレー・高原”

8月23日は、前夜の雨も上がり、さわやかな旅日和となった。リュックにトレッキング姿の皆さんが笑顔でバスに乗り込み出発した。

バスは、ナイスロードの緑の田園を走った。昔は三峰川の洪水に人々が苦しめられたこと、今は護岸工事がされ、霞堤の名残に往時の洪水対策がしのばれること、堤防の桜並木は美篤小学校の子どもたちの活動のたまものなど、ガイドの説明は興味深い。

国道152号を走り、長谷地区の入り口、常盤橋のたもとの高遠石工 守屋貞治作の不動明王を見た後、美和湖を眺めながら溝口から鹿嶺高原へ

の道に入った。途中「溝口のカラカサ松」に立ち寄った。この木は、推定樹齢400年の巨木で伊那市の天然記念物にも指定されている。参加者はその大きさに圧倒されながらしきりにカメラに収めていた。

出発から1時間30分ほどで鹿嶺高原雷鳥荘に到着した。眼下には伊那市や南箕輪村、箕輪町などが見え、歓声が上がった。パンフレットで地図や足元の花を確認しながら高原を散策した。

北星平キャンプ場から月見平展望台へと遊歩道を歩いた。展望台からは360度見渡せ、南アルプスが圧倒的な迫力で迫ってくる。参加者は「仙丈

登山を思い出す」「林道バスの道が見える」などと話していた。

雷鳥荘に戻ると、昼食は楽しみにしていたカレーパーティーだ。おなかも大満足した後は、「高原のお楽しみ会」を開催。マジック、歌、踊り、鹿嶺高原物語、フルーツ演奏等あり、キーボードやカセットデッキの伴奏で歌いながら若き日の懐かしい思い出に浸った。

帰路、国の重要文化財の熱田神社を見学し、地域の宝に感動しながら宝珠に触れて御利益を願った。帰りの感想には「伊那愛が深まった」とあった。

い〜なガイドの会  
プロジェクトメンバー  
城倉 徳子